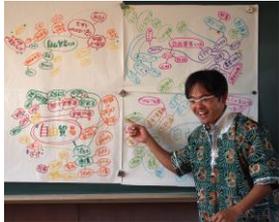


世界とつながる生き方・進路を考える

所属	静岡県立藤枝東高等学校	実践者	五藤 聡 (G)
対象	高校2年生	時間数	4時間(65分×4)
場所	社会科教室、体育館	実践教科	地理 B、総合学習
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・ガーナや世界と日本における同一性、多様性を肯定的にとらえる視点を養う。 ・発展途上国の現状や南北問題について考え、持続可能な国際協力の在り方について学ぶ。 ・自分と世界のつながりを意識し、世界とつながる生き方や進路について考える。 		
実践内容	回	プログラム	備考
	1	【ガーナ研修の報告会「国際協力の舞台」】 (@体育館) ①パワーポイントを使って、ガーナで感じたこと、経験してきたことを学年集会で報告した。世界の多様性を肯定的にとらえる視点を養い世界と自分とのつながりについて考えた。	Google Earth ガーナクイズ JICA の HP ガーナ実物教材 (農作物ほか)
	2	【新・貿易ゲーム】 シミュレーションゲーム ①地理 B の単元「流通と消費」の中で「新・貿易ゲーム」をやった。4タイプの国(先進工業国、新興国、資源保有国、後発発展途上国)に分かれ、各国が知恵をしばって製品の生産、貿易、経済外交などを行い、世界経済の動きを疑似体験した。	開発教育協議会 『新・貿易ゲーム』 ※ゲーム後のふりかえりこそが重要
	3	【新・貿易ゲームのふりかえりと、南北問題】 ①「世界の家族になりきって自己紹介」フォトランゲージ「多様性」「同一性」「肯定的」をキーワードに取り組んだ。 ②「新・貿易ゲーム」のふりかえり 前時の感想をまとめたレジュメをもとにゲームを振り返り、経済面での世界とのつながり、また現実世界で起こっている貿易や様々な問題について考えた。 ③「自由貿易とは？」ブレインストーミング 自由貿易の在り方や南北問題についてグループで話し合い、全体で国際協力の必要性について考えを共有した。	『地球家族』の写真はネットからダウンロード 
	4	【ガーナで活躍する日本人と、自分の進路】 ①「ムハンマドさん一家を救え！」ロールプレイ 資料を読み、グループで貧困やその解決法について話し合った。 ②「持続可能」な国際協力とは？ ガーナで活躍する協力隊・専門家のインタビュー映像を見て、国際協力の在り方や、ガーナが直面する課題について学んだ。 ③世界とつながる生き方や進路は？ 配布した進路資料をもとに、世界を舞台とする職業や国際協力について調べ、大学や職種などそこに繋がる進路を考えた。	YouTube 『ガーナで国際協力を行う青年海外協力隊・専門家』ほか 『PARTNER』: 国際協力の求人情報 HP
成果	地理Bの既習内容と、同時期に行った海外修学旅行での経験が土台となり、この国際理解教育実践がスムーズに進んだ。彼らがこれまで漠然と考えてきた国際社会について、自分とどのような関わりがあるのか、国際社会の中でこれからどのように生きていけばいいのか、より深く考えることができた。		
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・普段の授業でもこうした参加型手法を用いていきたい。生徒たちはとても楽しそうだった。 ・国際社会に通じる職業や大学について、自分自身もっと勉強が必要だ。 		
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・外務省『平成25年度国際協力重点方針』 ・朝日新聞社『世界を舞台に仕事がしたい』 ・旺文社『蜚雪時代』 		

[授業実践の詳細]

1 時限目 「国際協力の舞台」(学年集会)

1 子どもの活動の流れ

- ① ガーナといえば何？ 思いつくものを書き出す。3人で話し合う。
- ② Google Earth でガーナの位置を知る。〈教材1〉
- ③ ガーナクイズを通してガーナの多様性に気付く。〈教材2〉
 - Q1: カカオはどれ？ (生産や加工、貿易)
 - Q2: 女性の荷物の運び方は？ (市場の様子)
 - Q3: フーフーはどれ？ (生活、文化)
 - Q4: ガーナ人を不愉快にしまった行動とは？ (生活習慣、意識)
 - Q5: 「ガーナ人に聞きました。日本について知っているものは？」のアンケート結果を知名度順に並び替える。(同一性)
- ④ ガーナの抱える課題や国際協力の必要性とその舞台について、写真や映像で学習する。〈教材3〉

この時限のねらい

ガーナで見てきた様々な世界について「肯定的」に捉える視点を養い、また世界と自分とのつながりについて気づく。

2 子どもの活動の成果・反応

- ◇ 全体的に興味関心が高く、とても楽しそうに取り組んでいた。
- ◇ 特にガーナクイズ⑤(右表)のガーナでのサッカー人気に驚いていた。

ガーナクイズ⑤ アンケートの集計結果は・・・(一部抜粋)

順位	日本を代表するもの	15人中	知名度%	感想
1	日本企業	15	100	中でもトヨタ、ホンダ、日産、スズキ、パナ、ソニー
2	香川真司、長谷部誠	10	66	旧イギリス領なので欧州文化の影響大。英マンチェスターUのシンジカガワは大人気。藤枝東とガーナはここでもつながっている！
3	富士山	7	46	世界遺産になる以前から知名度は高かった。
3	東日本大震災	7	46	ガーナのTVニュースでも日本の原発汚染水のことをやっていた。深刻な国際問題。
5	ドラゴンボール	5	33	欧州経由か？
6	寿司、ラーメン	3	20	生魚は好まれないらしい。
7	野口英世	1	6	すこし残念。高学歴な特定の人にのみ知られる。
8	イチロー、松井秀喜	0	0	欧州に比べアメリカ文化の影響がこれほど少ないとは。やはりサッカー人気はすごかった。

3 使用した教材

〈教材1〉 Google Earth

(アクラモール、クマシ NISSAN 自動車工場、ケープコースト城、ヴォルタ湖など)

〈教材2〉 実物教材(農作物ほか)

〈教材3〉 JICA のホームページ



パワーポイントのスライド

ガーナが抱える課題や現状①

- ・ 貧富の格差、教育の格差、医療の格差
- 都市部のわずかな富裕層と、多くの貧困層
- 15歳以上識字率66% 地方では教育環境、教師のやる気の低さ。
- 産業がないことから教育の必要性を感じない家庭 小1で6歳~20代。
- 一方でエリート校も。

教育の重要性を痛感した！



1 子どもの活動の流れ

- ① グループ分け、ルール説明（5分）
（先進工業国・新興国・資源保有国・後発発展途上国）
- ② ゲーム実施（40分）
（途中、製品価格の下落や途上国への技術協力など、ゲームの流れに変化を与えた。）
- ③ 結果発表、感想（20分）

2 子どもの活動の成果・反応

この時限のねらい

- ・貿易を中心とした世界経済の基本的な仕組みについて理解する。
- ・自由貿易や経済のグローバル化が引き起こす問題に気づく。
- ・グループ内での協力、グループ間での交渉力、全体的な情報収集と分析など、様々なスキルの重要性に気づく。

◇ <表1>どの国もゲームに勝つことに集中した結果・・・

カメ国 山本大統領 ほか	ネズミ国 戸田大統領 ほか	イヌ国 増田大統領 ほか	サル国 拓真大統領 ほか
鉛筆 3 ハサミ 2 定規コンパス 1 分度器 1 紙 5 小クリップ 20	鉛筆 ハサミ 定規 1 紙 1 小クリップ 5	鉛筆 1 紙 20 小クリップ 2	鉛筆 紙 1 小クリップ 1
売上額 20000 ドル	2500 ドル	8300 ドル	1400 ドル
最終所持金 19990 ドル	2700 ドル	10500 ドル	1900 ドル

◇ 【カメ国の感想】

- ・コンパスで円を生産し、高価な商品を大量に販売できた。
- ・資源保有国に技術を売り、資源を獲得した。他国との取引を楽しむことができた。
- ・資源1枚を1000ドルで買い、3000ドルの商品を生産した。（2000ドルの利益）

◇ 【ネズミ国の感想】

- ・ものづくりの発展には、材料（＝資源）、道具（＝技術）、お金（＝資本）のバランスが重要だ。
- ・アイデア（技術力）が遅く、利益が伸びなかった。三角形を早くから作ればよかった。
- ・物価の下落に悩まされた。（長方形が半額に）
- ・世界の市場経済や自由貿易とその中の日本の厳しさを体感できた。他国との交渉が重要だ。

◇ 【イヌ国の感想】

- ・資源がいつの間にか無くなっていた（1枚1000ドルで輸出）。資源の使い方、交渉の仕方が難しい。
- ・イヌマークを印した資源を輸出し、他国の売上げの5分の1を受け取る交渉を得た。
- ・コンパスなし、線引きだけによって円を生産できた。
- ・資源保有国は強い。

◇ 【サル国の感想】

- ・何もなくて貧しかった。ハサミが無くて困った。
- ・他国との貧富の差は大きく、広がる一方だった。
- ・大統領の信頼度、国内での意見交換や協力、積極的な外交、そして他国との国際協力が重要だ。
- ・他国のゴミ受入れ処理、他国への出稼ぎ労働で少しでも儲けようとした。
- ・貧しくても国民が協力できて幸せだった。

3 使用した教材

<教材4>『新・貿易ゲーム』 開発教育協議会

<教材5>『シティズンシップ教育における「スキル」を重視した世界史の授業実践』

愛知県総合教育センター研究紀要

3 時限目「新・貿易ゲームのふりかえりと、南北問題」

1 子どもの活動の流れ

- ① 「世界の家族になりきって自己紹介」フォトランゲージ(10分)
 <教材6>
 ・『地球家族』の写真を読み取り、そこに移っている人や動物になりきって、自分の家族だとしてグループ内で紹介する。
 ・多様性を肯定的に捉える視点に注意する。
- ② 「新・貿易ゲーム」のふりかえり (30分)
 前時の感想をまとめたレジュメをもとにゲームをふりかえり、現実世界で起こっている貿易や様々な問題について、地理の学習内容と重ねて考える。
- ③ 「自由貿易とは？」ブレインストーミング (25分)
 ・貿易ゲームや地理の既習内容を通して考える。
 ・グループの意見をクラス全体で共有する。

この時限のねらい

- ・先進国や自分の一方的な視点からだけでなく、途上国や友人など自分とは異なる状況の立場からものごとを多面的に考える。
- ・南北問題や途上国とのつながり、国際協力の必要性に気づく。



2 子どもの活動の成果・反応

- ◇ 前時の新・貿易ゲームを通して、身をもって発展途上国の立場を知り、深い関心を示すようになった。
- ◇ フォトランゲージでは途上国の写真を使い、途上国の人々の暮らしをより身近に感じるようになった。
- ◇ 新・貿易ゲームをふりかえり、生徒から出た意見を現実世界と重ねて考えた。<表2>
- ◇ ブレインストーミングでは、先進国や途上国など状況の異なる国の立場や視点を通して、自由貿易の功罪について話し合うことができた。発展途上国とのつながり、南北格差の問題、国際協力の必要性などの意見が出された。

<表2>「新・貿易ゲーム」のふりかえり

<< ゲームでの出来事・意見 >>	<< 現実世界での出来事 >>
製品価格の下落	→ 需給のバランス、モノカルチャー経済国への打撃
製品チェックの厳しさ	→ 先進国やブランドの優位性、市場への新規参入の難しさ
原料の紙不足と紙くず	→ 有限な資源と廃棄物の多さ、環境問題
紙の追加、没収	→ 資源開発、資源枯渇、被災
モノサシで円をつくった	→ 技術革新の必要性
出稼ぎは相手にされなかった	→ 外国人労働者の問題
援助はあった？無かった…	→ ODA 政府開発援助などさまざまな国際協力の重要性
他国との貧富の差は拡大した	→ 南北問題 南北格差

↑ ほか、経済連携 (FTA・EPA・TPP 等)、資源カルテル (OPEC・OAPEC 等) についても取りあげた。

3 使用した教材

<教材6> 『地球家族』 1994年、TOTO 出版

4 時限目「ガーナで活躍する日本人と、自分の進路」

1 子どもの活動の流れ

- ① 「ムハンマドさん一家を救え！」 ロールプレイ (10分)
 - ・ムハンマドさん一家の窮状を示す資料を読んで、グループが一家と想定し、どうすれば貧困の状況から抜け出すことができるか、アイデアを出し合う。またグループで出た意見を発表する。
 - ・マイクロクレジットについて学ぶ。

- ② 「持続可能」な国際協力とは？ (40分)

- ・ODA 政府開発援助や JICA について、地理の学習内容と関連付けて学習する。
- ・ガーナで活躍する青年海外協力隊・専門家のインタビュー映像を見て、日本が行っている国際協力の在り方や、ガーナが直面する課題について学ぶ。<教材7>
- ・外務省の重点方針や、国際協力の求人情報ホームページを見て、今まさに世界で求められている国際協力がどのようなものであるか学ぶ。<教材8・9>

- ③ 世界とつながる生き方や進路は？ (15分)

- ・世界を舞台に働くならば、どのような仕事があるだろうか？ また将来、自分だったらどのように「世界とのつながり」を持って生きていきたいか？ 配布した進路資料をもとに、世界を舞台とする職業や国際協力について調べ、大学や職種などそこに繋がる進路を考える。<教材 10・11>
- ・ワークシートは後日提出する。<教材 12>

この時限のねらい

- ・実際の国際協力の舞台を知る。
- ・自分と世界とのつながりや在り方を具体的に模索し、将来の進路を考える。

2 子どもの活動の成果・反応

- ◇ 「ムハンマドさん」について生徒から出た解決策としては、「農作物を環境に合わせた耐乾性作物に変える」「有畜農法により生産性を高める」「副業の奨励」等、地理の学習内容を踏まえた意見が多かった。
- ◇ ODA 拠出額と GNI に占める割合については、金額だけで判断するのではなく、国際協力の中身が重要であることに気づいた。
- ◇ インタビュー映像を見ての生徒の感想(抜粋)
 - ・「竹本さんの『世界に目を向けようとする日本の若者の安全志向』という言葉が印象的だった。」
 - ・「片淵さんの『大変＝可能性がある』、『自分のやっていることをずっと続けていけば何かしらの可能性が見えてくる』という言葉をお忘れずに頑張りたい。」
 - ・「私たちは恵まれた教育環境にあることに気づいた。これからは授業1つ1つをもっと大切にしたい。」
 - ・「日本の『持続可能な開発』をテーマにした国際協力にとっても興味を持った。」
- ◇ ワークシートの結果(抜粋)
 - ・「今までは漠然と『海外で活躍したい』と思っていたが、世界には国際協力を必要としている人がたくさんいることが分かった。大学では国際関係学部に進学し、世界の様々な課題について研究したい。」

・「英語は特殊な能力ではなくツールだと分かった。大学では日本とは異なる世界の教育学について学び、将来は途上国の教育に関わりたいと思うようになった。」

3 使用した教材

- <教材7>インタビュー映像 『ガーナで国際協力を行う青年海外協力隊・専門家』・『ガーナ・アフリカの「変化」について(天水稲作プロジェクト)』(大橋さん、鈴木さん、広瀬さん、片淵さん、竹本さん) YouTube
- <教材8>外務省 『平成25年度国際協力重点方針』 pdf
- <教材9>『PARTNER』: 国際協力の求人情報ホームページ
- <教材 10>AERA『世界を舞台に仕事がしたい』 朝日新聞社
- <教材 11>『蛍雪時代 全国大学 学部・学科案内号』 旺文社



稲作専門家 片淵さんのインタビュー

あなたは将来、世界とどのようなつながりを持って生きていきたいですか？調べてみよう！

- ① 世界を舞台とする職業はどのようなものがあるか？興味のあるものを調べよう。
 - 海外ビジネス系の仕事
 - 国際業務系の仕事
 - 国際公務系の仕事
 - 専門家、資格系の仕事
 - 青年海外協力隊などのボランティア
- ② 世界につながるものとして、大学では何を学んでみたいですか？チャレンジしてみたいですか？ 調べよう。
- ③ 国際理解教育の授業を受けて、感じたこと、変わったことは何ですか？

<教材 12> ワークシート(概要)

■ 全体を通して

1 授業の様子

国際理解教育の研修を受けての最大の収穫は、高校の地理教育が「教科指導」だけに終わらず、世界を意識させた「進路指導」という新たな可能性を見いだせたことである。地理教育の目標の一つに、“グローバル化する現代世界において主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養うこと”とあるが、「参加型」の学びを通して、世界の多様性と同一性を理解し、生徒一人一人が世界と自分とのつながりをじっくりと考えることができた。ここで学んだことが進路実現につながってくれば嬉しい。



世界の家族になりきって自己紹介
(フォトランゲージ)



自由貿易とは？
(ブレインストーミング)



専門家のインタビューは熱い！
そして教師も熱い！

以上